令和６年度

「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」

提案書

～子どもファースト実現と
高齢者のウェルビーイング(生きがいや幸福感)
向上の両立をめざしたまちづくり～

２０２５年3月２８日

令和６年度「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」

委員一同

目次：

１．はじめに ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ Ｐ２

２．「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」の概要＿＿＿＿＿＿＿＿ Ｐ３

３．７つの提案 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ Ｐ８

４．【付録】委員アンケート結果（抜粋） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ Ｐ28

１．はじめに

私たちは 2024 年 10 月から 2025 年 1 月まで、４回にわたって「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」に参加し、「子どもファースト実現と高齢者のウェルビーイング(生きがいや幸福感)向上の両立をめざしたまちづくり」をテーマとして議論を重ねました。住民基本台帳から無作為で選ばれた 43 人のほか、「子どもファースト」当事者である市内在住・在学中の 11 人の中高生が参加したことは最大の特徴だと思います。年齢や性別、職業など多種多様なメンバーで話し合うと、自分とは異なる意見や考えに気づくことができ、回を重ねるごとに議論にのめりこんでいきました。

議論を進める中でキーワードとなったのは、「子どもファーストの当事者である子どもの声に耳を傾ける」「子どもと高齢者の関わりをつくることの重要性」「子どもも高齢者も誰もが社会の担い手として活躍できる（共生へのパラダイムシフト（→６ページ））」「『高齢者に楽しんでもらう』から『高齢者が自ら楽しむ』への発想転換」。それらを通じて子どもも高齢者も、自らが主体となって「楽しさ」や「生きがい」を感じられることが、子どもファースト実現と高齢者のウェルビーイング向上の両立において必要ではないでしょうか。

さらに、このテーマをより深く考えていくと、多様性の視点を持つことの重要性に気づきました。私たちの多くもそうですが、選択肢を持っている人にとっては当たり前だと感じる（不満がない）ことが多くありますが、選択を持つことのできない人がいることを知り、すべての市民の気持ちに寄り添うことができなければ、このテーマの実現には至らないと考えるようになりました。

この提案書の特徴は、「行政が行うこと」のほかに「私たち住民が行うこと」も記載していることです。市民は千差万別です。記載されていることをすべて行うことは、とても大変だと思いますが、まずは自分ごととして考えることが大切で、優先順位を付けながら一つひとつ実行に移していくことが大切だと思っています。

行政としても、「いかに実現できるか」という視点で、そして地域や市民と協働しながら実行に移していただきたいと思っています。

この提案書が、「子どもファーストの実現と高齢者のウェルビーイング(生きがいや幸福感)向上の両立をめざしたまちづくり」実現に向けた一助となることを願っています。

※東大阪市では、2023 年 10 月に「東大阪市子どもファースト推進本部」を立ち上げ、「子どもファースト」（子どもの権利と利益が最優先）をスローガンに、「家庭に子どもがいるいないにかかわらず、社会全体で子どもや子育てを応援できるようなまち」をめざしています。

2025 年 3 月 28 日　令和 6 年度ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル委員一同

2.「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」の概要

2024 年 10 月から、“子どもファースト実現と高齢者のウェルビーイング(生きがいや幸福感)向上の両立をめざしたまちづくり”をテーマに、無作為抽出によって集められた住民と、公募により申し込みのあった中高生による議論を行いました。

会議参加者

委員	・無作為抽出住民 43 名* *住民基本台帳より無作為に選ばれた 2,000 名の中から参加した方 ・市内在学、在住の中高生 11 名
コーディネーター	A 班 ・伊藤　伸 氏（構想日本 総括ディレクター） B 班 ・定野　司 氏（構想日本 シニアフェロー） ・柏崎　亮太 氏（構想日本　フェロー）
ナビゲーター	【専門家の立場から議論にあたっての論点の提示や話題を提供する役割】 A 班 ・加藤　忠相　氏（株式会社あおいけあ　代表取締役） B 班 ・定野　司 氏（構想日本　シニアフェロー/東京みらい中学校　校長/元東京都足立区　教育長）

委員名簿

浅田　一朗	**石本　樹生**	**市村　友**	**大道　洋平**	**岡橋　藍**	**川隅　正尋**
菊池　淳子	**小櫻　亜紀**	**児玉　愛美**	**小林　久人**	**佐野　志穂美**	**杉浦　将太**
髙木　康輔	**竹鼻　健太郎**	**辻林　和**	**露口　義則**	**難波　和弘**	**西村　重樹**
野邊　常夫	**原　雪月**	**南口　慎之介**	**村野　真悠**		他 32 名

※掲載に同意をいただいた委員の氏名を掲載

各回会議概要

第１回	【2024 年 10 月 27 日（日）9：00～12：00】 ・開催趣旨の説明、東大阪市の現状説明（市） ・自分ごと化会議の説明（構想日本） ・新しい介護予防プロジェクト「トルクひがしおおさか」の取り組み紹介（市） ・こどもの意見聴取についての講義（Liquitous） ・オンラインプラットフォーム Liqlid の紹介（Liquitous） ・グループに分かれて、自己紹介など
第２回	【2024 年 11 月 17 日（日）9：00～12：00】 ・前年度ラウンドテーブルでの提案内容の説明（構想日本） ・子ども施策、高齢者・地域福祉施策についての説明（市） ・グループに分かれて、テーマ「子どもファースト実現と高齢者のウェルビーイング(生きがいや幸福感)向上の両立をめざしたまちづくり」について議論 ・「改善提案シート」の記入など
第３回	【2024 年 12 月 22 日（日）9：00～12：00】 ・ナビゲーター講演（各班） ・グループに分かれて、テーマ「子どもファースト実現と高齢者のウェルビーイング(生きがいや幸福感)向上の両立をめざしたまちづくり」について議論 ・「改善提案シート」の記入など
第４回	【2025 年 1 月 19 日（日）9：00～12：00】 ・グループに分かれて、提案書（案）について協議 ・「意見提出シート」の記入 ・ラウンドテーブルに参加した感想の共有など

会議風景

opsol
opsol株式会社
にじの大連

自分ごと化会議
私に関係ある？ある！

自分ごと化会議

自分ごと化会議
私に関係ある？ある！

- A 班の議論ポイント -

ナビゲーターの加藤さんのお話を聞いて、「あおいけあ」のような高齢者と地域の人、特に子どもたちが繋がれる場所が必要なのではないかと考えました。

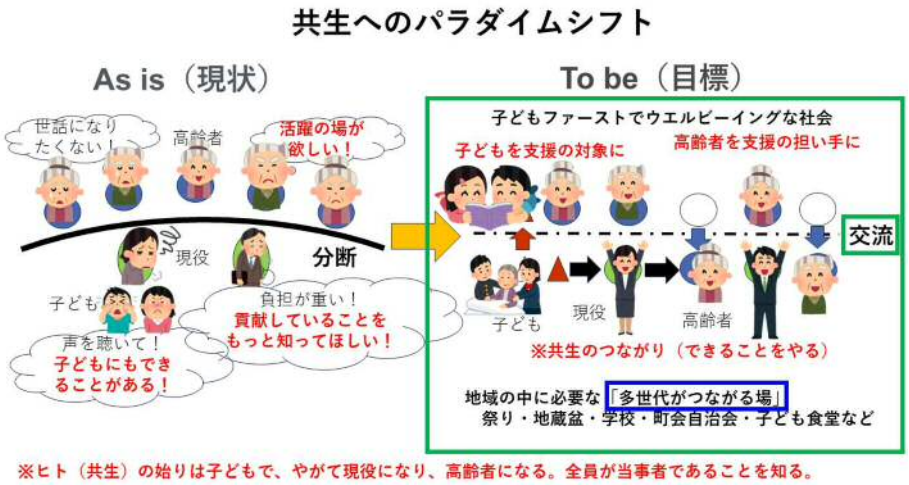
> ●「あおいけあ」から見えた介護施設のすがた
>
> ・高齢者に楽しんでもらうのではなく、高齢者が主体となって楽しむにはどうすればいいか、を重視。
>
> ・認知症の方が持っているスキルや経験を活かし、自分らしく過ごせる環境を提供。
>
> ・施設内にフリースペース（拠点）を設け、子どもや地域住民が自由に出入りできる場を提供。
>
> いずれも『発想の転換』が鍵。そして、リスクのないことはないからこそ、リスクを覚悟することが大切。また、最大のリスクの回避は信頼関係の構築。

※株式会社あおいけあ：神奈川県藤沢市で高齢者向け福祉サービス、グループホーム・小規模多機能型居宅介護を運営。利用者の方が地域に溶け込み、自立した生活を実現できる環境を創り出している。

- B 班の議論ポイント -

ナビゲーターの定野さんの話をきっかけに、現役世代だけでなく子どもも高齢者も社会の担い手として参画する「共生へのパラダイムシフト（価値観や考え方の劇的な変化）」が必要なのではないかと考えました。

> ●「共生へのパラダイムシフト」
>
> 多数の高齢者を少数の現役世代が支える「少子高齢社会」を希望の持てる持続可能な社会に変えるためには、現役世代の負担を軽減し、未来を担う「子ども」への支援を厚くする必要があります。「共生」とは、子ども、現役世代、高齢者、全ての世代が互いに支え合い、協力して生きることを意味します。「共生へのパラダイムシフト」は、単なる支援や援助にとどまらず、誰もが互いに役立ち合う持続可能な社会を目指します。現役世代だけでなく子どもも高齢者も社会の担い手となり、すべての世代が互いに支え合う仕組みを構築することによって、不確実な時代における強固で自立した社会が実現します。



このパラダイムシフトを具体化する中で、支援の対象者と担い手をマトリックスにして考えました。（→19 ページ）

３．７つの提案

世代を超えて、つながり、支え合い、
子どもも高齢者も誰もが主役となる。

提案 1. 子どもと高齢者や地域の交流の機会を創出し、ひとりひとりが地域の一員としてつながることで、自然に挨拶がしあえるような地域力の強い東大阪市をつくる

提案 2. 多くの人々が世代を超えて集える「交流×賑わい」の場所を創出する

提案 3. 子どもの意見に耳を傾け居心地の良い環境をつくるなど、すべての世代が「子どもファースト」の具体化に向けて動く

提案 4. 「高齢者に楽しんでもらう」ではなく「高齢者が自ら楽しむ」ことをあらゆる場で考え、高齢者がいつまでも主役として活躍できる共生社会を実現する

提案 5. 子どもから高齢者まで、幅広く地域の人材を育成しながら、社会を中心となって支えている現役世代にも着目して必要なサポートを行うことで、子どもが大人になりたいと思える社会を実現する

提案 6. 公園・遊び場・道路の安全性と利便性を高め、誰もが安心して過ごせる環境をつくる

提案 7. それぞれの主体ごとに情報収集・発信を強化することで東大阪市の魅力をさらに広げる

提案	１．子どもと高齢者や地域の交流の機会を創出し、ひとりひとりが地域の一員としてつながることで、自然に挨拶がしあえるような地域力の強い東大阪市をつくる

「知らない人に声を掛けられてもついていかないように」と大人は子どもに教える。だからこそ、挨拶をしあえるような安心できる環境をつくる必要がある。そのためには、世代間や地域での交流の機会をこれまで以上につくり、「近所の知らない人」から「知っている子どもや高齢者」「話したことのある人」になるのが良いのではないか。「地域力の強い都市」東大阪として、最も住みやすいまちを目指す。

「提案１」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	① 普段の挨拶や会話を通して話しかけやすい環境づくりを心掛ける。 ② 挨拶を積み重ねていくことで、お互いに何かあったときに助け合える関係を築く。（「近所の知らない人」から「知っている子どもや高齢者」「話したことのある人」になることが大事）。 ③ 友だちや地域内での声かけを積極的に行うなど、進んで地域の催しに参加し、地域の人と交流する。 ④ 家族ぐるみで地域の高齢者と積極的にコミュニケーションを取り、子どもが保護者の見守りのもとで高齢者と接する機会を作る。 ⑤ 子ども会への参加を促し、子どもが地域と関わる機会を用意する。 ⑥ 地域のマラソン大会などのスポーツイベントや、子どもの見守りなどの子どもに関わるボランティアに参加する。 ⑦ 老人会や小地域ネットワークに子どもが参加するなど、高齢者を対象としたイベントイベントに、地域の子どもたちや若者が関わり、交流する機会をつくる。 ⑧ 季節ごとに各々がやってみたいイベントを話し合う機会を設ける。開催するときには近所の掲示板で宣伝する。 ⑨ 高齢者施設が利用者と地域や子ども・若者と関わる機会をつくることで利用者の満足度が高まった先進事例を学び、地域に発信する。
地域	① 地域全体で子どもや高齢者に目を向け、手助けを必要とする状況に気付けるようにする。

	② 防犯、災害時への準備として、高齢者独居、単身者世帯へ地域ぐるみでアプローチする。 ③ 子どもの見守り運動「愛ガード運動」や駅立ちなど、不特定多数に対する挨拶から始め、自然と挨拶できるような地域の雰囲気づくりをする。 ④ 学校や老人ホームなどに声かけをして、地域のイベントに参加する人を増やす。地域の集まりや老人会などで、夏祭りや日本の昔の遊びや文化を伝えるイベントを開催し、世代間の交流をはかる。 ⑤ 地域の催しを積極的に開催する（アンケートなどで、みんながやりたいイベントを実現する）。その際、無作為抽出で参加者を選抜する（神輿担ぎなど）など、多様なアイデアで誰もが参加しやすい工夫を考える。 ⑥ 地域と地元の企業で協力して、新しいイベントを企画する。 ⑦ 地域の仲人さん（おせっかいさん）を作り、人と人とをつなぐ。 ⑧ 地域の自治会でもジェンダー平等に取り組み、意思決定の際は男女どちらも 3 割以下にならないようにするといった配慮をする。 ⑨ タバコやお酒の制限等、ルールを作って誰もが参加しやすい祭りをつくる。
行政	① 市民に対し、地域での挨拶の大切さを発信する。 ② 魅力的なイベントにするため市民の意見を聞く仕組みを設ける。それらの地域のイベントを、できる限り市の公式 SNS で発信する。 ③ 市外の学校に通う人でも、同じ地域の中高生とつながれる場を作る。 ④ 自治会や子ども会など、それぞれの地域コミュニティ責任者同士の交流や情報交換、人材育成を支援する ⑤ 高齢者と子ども、地域のパイプ役になる。行政のネットワークによって、高齢者の得意分野（園芸、畑作業、裁縫、囲碁、将棋等）が活用できる仕組みをつくる（知識や体力のある高齢者が多いのにそれを活かせないのは少しもったいない）。 ⑥ 防犯や防災の観点で、高齢者や障害者など弱者支援の地域での取組みをサポートする。 ⑦ 学校の中で高齢者が活躍できる場を作ったり、逆に授業や部活動で子どもたちが高齢者施設を訪れるなど、交流の観点で学校を活用する（例：学校にラグビー選手が来る際に、地域の人にも来てもらって多様な人と関わる場を増やす、着付けなど日本の文化を学ぶにあたって高齢者の力

	を借りる機会を設ける）。その際、学校は柔軟な対応を心掛ける。 ⑧ 地域のニーズと地元企業を繋ぎ、地域の交流を活性化するとともに、イベント開催を補助金や広報面で支援する。 ⑨ 地域の関わりが減っている原因を探り時代に合った仕組みを検討する。
その他	① 企業が企業のキャラクター等を利用して、挨拶の大切さをアピールする。 ② 企業が主催し、地域との交流会を行うことで、地域のつながりを強化する。 ③ 多くの人を巻き込んで、持続可能な地域共同体を作る術（インセンティブの付与など）を考える。

提案　2．多くの人々が世代を超えて集える「交流×賑わい」の場所を創出する

「高齢者と交流する場がない」と中高生から複数意見が出た。若い世代に高齢者との交流のニーズがあることは非常に貴重。「株式会社あおいけあ」が運営する施設のような、地域の賑わい空間をつくることが必要である。まずは市内の既存施設の中で、「交流×賑わい」の場を作っていく。その際、花園ラグビー場を賑わいの拠点にするのが良いのではないか。これまでは、「ラグビーの聖地」の印象が強く敷居が高い面もあるが、全国的な知名度が高い強みを活かして拠点化することは可能だと考える。

「提案２」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	① 学生として、地域の高齢者と関わる場所に積極的に参加する。 ② 会議に参加したメンバーとして、東大阪市に愛着を持ってみんなで東大阪市を盛り上げる。 ③ 地域の居場所として活用できそうな公共施設や空きスペースを見つけたら、知らせる。 ④ 公共施設の備品が故障していたら、自治会や市に知らせるなど、居心地の良い場所の創出に自ら取り組む。 ⑤ なるべく市内で買い物をして、地元の商業施設の活性化を図る。 ⑥ 自分から興味を持って情報を調べ、演劇、舞台、美術鑑賞、映画鑑賞等の市内の文化活動を盛り上げる（月に一度は文化イベントに参加する）。 ⑦ どのような商業施設・観光施設があれば地域の賑わいを創出できるのか自ら考え、行政や民間企業に声を届ける。
地域	① 学校や自治会、子ども会などが協力し、お互いに譲り合って気持ちよく施設を利用する。 ② 高齢者と子どもが一緒に施設（公共施設や高齢者施設など）を利用できる機会をつくり、利用機会の増加と世代間の交流を図る。 ③ 文化創造館等の今ある施設を活用したイベントの開催や、著名人を呼べるようなイベントの企画をする。 ④ マラソン大会、フリーマーケット、音楽イベント、歴史を学ぶ会など、地域の人が集まって趣味を楽しみ、気軽に交流できるイベントを開催する。

行政	① 地域の居場所として公共施設の活用を推進する。活用できるよう、いまある公園や公民館の状況を把握し、利用者が快適に使用できる環境を整える。 ② 市役所周辺に、夢と文化と収益性のある施設や空間を作る（他市の施設では、建物の前の芝生に小さな子どもとお父さんお母さんが遊んでいて、楽しそうな風景が広がっている。工夫すれば高齢者を呼び込むこともできそう）。 ③ 文化創造館での演劇や、ラグビー場での野外シネマなど、市の施設を活用して市全体で文化的活動を推進する。 ④ 花園ラグビー場を賑わいの拠点にする（今は、認知度は高いが敷居が高い）。ラグビーの試合がなくてもイベントを開催するなど、ラグビーに関心のない人も集いやすくする。 ⑤ 老朽化して閉館した郷土博物館のような、同じ趣味を持った多様な年代の人が集まれる場を再度検討する（東大阪を知る場になる）。そのような施設を作る場合、人々が気軽に交流できる場を設置する。 ⑥ 企業と連携して、現役世代・若者世代が楽しめるショッピング施設や、飲食店、映画館、子どもが遊べる施設を呼び込む。 ⑦ 公共施設の空きスペースや高齢者施設の地域交流スペースなどを活用して子どもの自習場所を設けるなどして、子どもと高齢者が自然に会話し、空間を共有し、交流できる機会を創出する。 ⑧ 保育施設を併設している介護保険サービス事業所（老人ホームなど）のように、日常的に子どもが高齢者の活動に参加できる機会・場所を増やす。

【自由記載】

- 東大阪市は、町の中心部が分散しており、市内中の高齢者や障害者が簡単に訪れることができる場所を作ろうとすると、地理的に難しいことが課題。

提案 3．子どもの意見に耳を傾け居心地の良い環境をつくるなど、すべての世代が「子どもファースト」の具体化に向けて動く

「子どもファーストの実現」をスローガンだけで終わらせてはいけない。この理念を具現化するためには、一つひとつの課題を解決することが重要である。この会議では、「放課後や休日の子どもの勉強場所が少ない」「不登校や発達障害の子どもへのサポートの必要性」「学校給食の充実」「子ども食堂の認知度向上」などが挙げられた。子どもの意見に耳を傾け、これらを一つひとつ解決していく。その際に、ジェンダーの視点や LGBTQ、在住外国人、障害を持つ子どもや保護者、感覚過敏の子どもへの配慮など、すべての多様性を受け止められるような環境の実現が欠かせない。それによって、全国一の子どもファーストな東大阪市を目指す。

「提案３」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	① 放課後の勉強場所として教室を使うことができないか学校に相談する。自習が可能な図書館など、学校以外で勉強できる場所を調べる。 ② それぞれの子どもに合わせたやり方で意見を聞くなど、子どもが意見を言いやすいように工夫する。 ③ 地域の子どもたちのために、ボランティアで勉強を教える。 ④ 不登校の子どもへの支援として当事者の話を聞き相談に乗る。 ⑤ 給食について自分でも情報を収集して、行政に声を届ける。（自主的に給食の満足度を調査するなど、具体的な改善点を明らかにして解決を目指す。） ⑥ 子ども食堂について調べ、何をしているのか詳しく知る。子どものために、自分にできる範囲で子ども食堂の手助けをする。
地域	① 子どもが学校に行きたくなるような行事を企画・実施する。 ② 勉強する意思はあっても学校で授業を受けることが難しい子どもたちに対し、地域で支援できる場所を探す。 ③ 子どもの勉強場所として、地域が管理している施設を開放したり、民間施設（福祉施設など）の部屋が使えるよう働きかける。 ④ 地域で学習支援ボランティアを募集し、子どもの勉強の支援をする。 ⑤ 給食の残飯量の調査や生徒の満足度調査、好きな食べ物についてのアンケート調査を実施し、給食の改善点を学校に提案する。 ⑥ 子ども食堂の場所をわかるように宣伝する。子どもたちが入りやすいよう

	な工夫をする。 ⑦ 地域のイベントやお祭りで「センサリールーム」（光や音、香りなどの五感の刺激を調整するなど感覚過敏の症状がある人が安心して過ごせる空間）を設置し、多様な子どもたちが地域に参加する環境を整えるとともに、その周知を行う。 ⑧ 性別にかかわらず希望する進路をサポートする体制を作る。（「ものづくり」という東大阪市の魅力を生かして、企業の力も借りて理系女子の応援をする。）
行政	① 留守家庭児童育成クラブの負担をできるだけ軽減するなど、子どもたちの放課後の居場所を確保する。 ② 不登校児童が相談できる窓口を積極的に周知する。 ③ 制度の柔軟な活用を支援し、障害を持つ子どもたちやその保護者が幅広い支援を受けられるようにする。当事者や近くで支援している人の意見を反映し、支援制度を充実させる。 ④ 誰もが必要なケアを受けられるよう、障害のある子どもをサポートできる病院や支援施設を充実させ、早期の療育が可能な環境を整える。 ⑤ 子どもが勉強できる市内の場所を調査し発信する。中高生当事者の意見を聞き、使いやすい勉強場所を整備する（公共施設の空きスペース、高齢者施設の地域交流スペース、リージョンセンター、社会福祉協議会、空き店舗、廃校は活用可能か）。子どもと高齢者の交流機会の創出にもつながる。 ⑥ 図書館や学校、公共施設で勉強ができるよう、既存施設の環境整備や利用時間の見直しを行う（学生は使えるお金に限りがあるので無料で勉強できる場所がほしい）。 ⑦ 学校給食の充実に向けた取り組みとして、アンケートを実施し、業者と一緒に改善点や要望を集約・分析する。中長期的にはセンター方式から自校方式で給食をつくることも検討する。 ⑧ 給食業者の選定の際、大人だけでなく子どもにも味見をしてもらうことも検討する。また、大学生による給食の献立トーナメントを行い優勝者の献立を実食したり、退職した栄養士やシェフに給食の献立作成の協力をお願いするなどの趣向を凝らした取組みも検討する。 ⑨ 東大阪の食品メーカーとコラボし、インパクトのある取り組みを実施す

	る。企業も PR になりメリットがある。 ⑩ 子ども食堂の取組みを周知し、1 人でも多くの必要としている子どもが利用できるようにする。
その他	① 企業は空いている場所を勉強場所として貸し出す。 ② 給食事業者自身がアンケートをとるなど、子どもたちの意見を反映させた給食づくりに取り組む（物価高騰などで様々な苦労があるとは思うが、食育の観点からも、小中学校は大切な期間なので改善が必要）。 ③ 企業が、余った食材や空きスペースなどを子ども食堂のために提供する。プラットフォームサイトを利用して、食材が余っている情報などの情報交換のネットワークを構築する。

提案	４．「高齢者に楽しんでもらう」ではなく「高齢者が自ら楽しむ」ことをあらゆる場で考え、高齢者がいつまでも主役として活躍できる共生社会を実現する

「高齢者に楽しんでもらう」「高齢者を楽しませる」という考えは支援する側の視点でしかないのかもしれない。デイサービスでも地域のイベントでも、「高齢者が自ら楽しむ」環境を敏感にとらえられる地域でありたい。そして、「高齢者が経験や知識を活かして自ら楽しむ」ことは子どもの学びにもつながることを「あおいけあ」の活動など好事例の報告の中で知った。それこそが「共生」の考え方でもあるので、行政と市民が一体となってそれを追求することが重要である。

「提案４」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	① 高齢者のことを知る。祖母や祖父がいれば会いに行く。 ② 高齢者施設も一軒の家庭と捉え、「ご近所さん」として日常的に関わる。 ③ いずれ高齢者に向かう現役世代として、市・地域・社会の取り組みに参画してみる。 ④ スマホの使い方や SNS の使い方、大学で学んでいることなどを生かして、地域の人を支援する。 ⑤ 定年後のセカンドキャリア形成や、シニア世代の多様な人材育成のために、自分にできることがあれば積極的に支援する。
地域	① 卓球、手芸、工作、陶芸、編み物など、地域の一人ひとりの強みをまとめ、それぞれの得意なことや今までの経験を生かして地域の子どもとの交流をつくる。
行政	① 高齢者が資格取得するための補助金の対象を広げるなど、個人のスキルアップの機会を増やす。 ② 「50 歳からのセカンドライフ相談所」を作るなど、定年退職後にもやりたいことが実現できる環境を整える。 ③ シニア女性が健康に長生きするための取組みや、シニア男性が参加しやすいコミュニティづくりなど、それぞれが抱える課題にフォーカスし解決を目指す。 ④ 高齢者施設入所者と地域が日常的に関わる環境をつくる（地域に開かれた高齢者施設を目指す）。

⑤ 子どもが学校のなかで、高齢者などの社会課題を考え解決策を検討し、プレゼンをする取組みを支援する（入賞チームへの実現に向けたサポートや、テレビ局へのアプローチなども検討する）。

（参考）

今回のテーマである、「子どもファースト実現と高齢者のウェルビーイング(生きがいや幸福感)向上の両立をめざしたまちづくり」とは、現役世代だけでなく、子どもも高齢者も社会の担い手として参画する「共生へのパラダイムシフト」を生むことです。そのため、私たちは支援の対象者と担い手を図のようなマトリックスにして考えました。

共生へのパラダイムシフト（支援の対象者と担い手のマトリックス）

		支援の対象者		
		子ども	現役世代	高齢者
支援の担い手	子ども	市外中高生と繋がる 給食の味見をする ピアチューター ジュニアリーダー	子ども議会で意見を述べる（まとめる） 子ども会に参加する 家事手伝い	老人会に参加する 祖父母に会いに行く 高齢者施設に行く デジサポ 買い物代行
	現役世代	子どもが大人になりたいと思えるような社会の実現		
	高齢者	子ども見守りたい 昔の遊びを教える 不登校の子ども相談 子ども食堂に参加	リスキリング セカンドライフ相談 地域の仲人になる 人生の達人 育児相談 孫育て	隣組 地域サロン

＊ピアチューター：「仲間同士で教え合う」という意味。学生が学校生活を送る中で生じる学習面や生活面での疑問や悩みなどを、仲間である学生に相談したりアドバイスを受けたりすること

＊リスキリング：新しい仕事や変化するビジネス環境に適応するために、必要な知識やスキルを学び直すこと

＊デジサポ（デジタルサポーター）：スマホの使い方などデジタル機器の運用のサポートをする人

＊孫育て：子育てサポートの一環

提案	5．子どもから高齢者まで、幅広く地域の人材を育成しながら、社会を中心となって支えている現役世代にも着目して必要なサポートを行うことで、子どもが大人になりたいと思える社会を実現する

人口が減少しつつある中で、重要になるのはヒトである。多様な人材が東大阪市に関わることで持続可能なまちづくりが可能になる。学校だけでなく地域も含めた子どもの教育と、希望する高齢者への学び直しによって人材の育成を行う。子どもと高齢者に比べて現役世代は注目されにくいため、現役世代にもしっかりと目を向けて、「現役世代＝仕事や税金の負担がしんどい」というイメージを変えていく。それらによって、子どもから高齢者まで、齢をとるごとに生きていて良かったと思える社会、つまり「子どもが大人になりたいと思える社会」が実現する。

「提案５」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	① 自ら普段からの社会参加の意識を高め、親として子どもの意識醸成を図る。 ② 自治会などを活用して社会で働く大人と子どもの交流の場を作る。 ③ SNS などで仕事の発信をして、大人になることの楽しさを子どもにも知ってもらう、職場見学を受け入れる（例:給食センター、ゴミ処理場など注目されないけれど大事な仕事） ④ 歩きたばこやながらスマホ、ごみのポイ捨てをしないなど、子どもに注意したくなることをまずは自分がしない。 ⑤ IT、スマホの活用などの知識や、個人それぞれが持つ多様な知識を周りに伝えられる場を作り、地域の人のリスキリング（学び直し）に役立てる。
地域	① 地域企業のアピールをして、地元で働くことの魅力を知ってもらう。 ② 学生たちが安心して通学や学習できる教育環境や生活環境をつくる。 ③ 生活に必要な情報や知識を先取りして伝える代表者を各地区に設ける。 ④ 現役世代も楽しくプラスになるような地域の行事を開催する（平日昼間の開催が多く参加できないので多くの時間帯で開催する）。
行政	① 子どもの気持ちを汲み取るためのスタッフを配置する。 ② リスキリング（学び直し）の場をつくる。 ③ 様々な分野で活躍する人の講演会を行う。その際、飲食店を会場にしたり提携店の割引チケット配布などで周辺の飲食店で食事をしてもらうことで、地域経済の活性化も図る。

④ 子ども議会など子どもの意見を聞く場や仕組みを設け、子どもの意見を取り入れたまちづくりに取組む（参加へのインセンティブをつくる、空きスペースを活用した常設の子ども議場の設置、子どもだけでなく年代別の議会の開催など、様々な工夫を検討する）。

⑤ 情熱のある経営者に、大使など東大阪の顔になってもらうような協力をお願いする。

⑥ 学校にも講師を派遣し、税や投資、IT など社会を生きていく上で必要な教育を行う（まずは子どもへの教育、その先に多世代へと広げる）。

⑦ ワークライフバランスの充実を発信するなどして、現役世代が活躍を実感できるまちづくりを行う。

⑧ 希望すれば仕事の合間でも地域活動ができるように、企業との協力体制をつくる。

⑨ 場所や情報の提供など、起業家や留学生が活躍しやすい仕組みを確立する。

【自由記載】

- 税金が負担に感じることがある。自分の払っている税金が役に立っているのだということが明確にわかることができたら、現役世代は負担が重いだけで嫌だという様にはならないと思う。

提案 6．公園・遊び場・道路の安全性と利便性を高め、誰もが安心して過ごせる環境をつくる

昨年度の会議に続いて、公園でのボール利用や管理、道路環境、交通マナーに関する意見が多く出た。ボールや花火の利用制限については昨年度の提案を受けて検討中とのことだが、役所の中の検討プロセスもしっかり公表することが必要である。また、市民が日頃の生活で気づく道路や公園などの改善ポイントを行政が随時聞き取り、可視化できる仕組みがあると、さらに市民の満足度が高まる。

「提案６」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	① 公園を利用するときは、ゴミを持ち帰るなど美化を心掛ける。 ② ボールを使えるか、花火ができるかなど近隣の公園を把握する。 ③ 定期的に公園や道路の清掃活動や、見守り活動をする（「愛ガード運動」など）。 ④ 公共の乗り物に乗る際のマナーを守る。 ⑤ 車、自転車、歩行者それぞれが、交通ルールを守る意識を高める。 ⑥ ガードレールがある道を通るなど、危ない場所はなるべく避ける。 ⑦ 公園の貸切り利用は平日のみにするなど、譲り合って子どもの遊び場を確保する。 ⑧ 空き地の活用法を考える。
地域	① ゴミ箱の設置や草刈りの回数を増やすなど、公園の環境を整える。 ② 地域で協力して見回りを行い、不審者に気付ける環境をつくる。 ③ 公園にベンチや遊具、日陰、街灯などの整備にお金を出したり募金を呼びかける。 ④ 球技ができる公園の情報を共有する。地域で話し合って場所を探す。 ⑤ 子どもや大人を問わず、マナーの悪い人を見かけた際の対応についての講習を行う（それにより、声掛けがしやすくなり治安も良くなる）。 ⑥ 交通ルールの学習会やイベントを地域単位で開催する（ヘルメット着用の啓発も行う）。 ⑦ 行政の危険ポイントがわかるマップ作成に協力する
行政	① 地域での呼びかけ活動や見回り活動を推進する。有償ボランティアとして

	行うことで多くの人に参加してもらうことを検討する。 ② 防犯カメラの設置や、警察と連携し取り締まりを強化することで、安心して過ごせる環境をつくる ③ ベンチや遊具、日陰、きれいなトイレを整備し使いやすい公園にし、子ども達が自由に元気に遊べる場を増やす。 ④ 球技、スポーツ、花火など何ができる公園なのか見える化や、球技ができるエリアを区切ったり球技ができる公園をつくることで、公園利用の促進と住民間トラブルを抑制する。 ⑤ 管理不全な空き地を減らし、公園やみんなが気軽に行ける施設など、土地を有効活用できるよう働きかける。 ⑥ 公共交通を充実させ、安価な運賃で乗れるようにする。 ⑦ 側溝のカバー設置やヘルメット購入など、道路の安全を高めるための補助をする。 ⑧ モデル地域を設定し、「声掛け」や「迷惑行為への対応」の促進や信号、ガードレール、街灯の設置、電柱の地中化、歩道の整備などを行う。 ⑨ 市内の危険な場所が一目でわかるようなマップを作成する（不審者マップ、防災マップ、交通安全マップなど）。
その他	① 企業として環境活動に取り組む（清掃、資源の節約、再利用など） ② 学校近くの工場や会社では、車の運転に気をつけるよう職員に注意を促す。 ③ 公園周辺の企業や利用する市民は、子どもの遊ぶ時間帯に公園内で喫煙や飲酒をしないなどの協力をする。

提案 7．それぞれの主体ごとに情報収集・発信を強化することで東大阪市の魅力をさらに広げる

今回の会議に参加したことで、東大阪市の課題がわかっただけでなく、東大阪市が行っている多くの取組みについて知り、地域の魅力を再発見することにもつながった。これらの情報を市民はより積極的に収集し、行政はもっとわかりやすく伝えていくことが必要である。市民と行政が協働して情報を共有、発信することで東大阪市の魅力が外に溢れ出ていくのではないか。

「提案７」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	① 市政だよりや市の HP、LINE などを読み、市の取組みに興味を持つ。 ② 今回のような市民が参加できる会議に参加して、そこで得た知見を周囲に伝える。提案書を多くの人に読んでもらえるように働きかける。 ③ SNS での情報発信や周りの人との会話を通して、関心がない人へも関心の種を蒔く。お店に市の取組みの発信のためのチラシを貼ってもらう。 ④ 他の自治体の先進的な取組みを調べ、市に働きかける。 ⑤ 子どもが利用できる施設やイベント、手続きなどについての情報を周囲の子どもがいる世帯に共有する。 ⑥ 子どもと高齢者の中間にいる現役世代が、情報収集と発信、共有を率先して行う。 ⑦ 提案書の「住民が行うこと」の中で優先順位を考えてできることから行っていく（自主性が大事）
地域	① 自治会や地域の集まり、掲示板や回覧板で、地域の祭りやイベント、清掃活動などの情報を共有する。 ② 地域で困っている人がいたら、積極的に情報提供やサポートを行う。 ③ 政策をわかりやすくまとめ、漫画化したり図書館で読み聞かせをしたりして、多くの人に知ってもらう機会を作る。 ④ 今回の会議での提案について、自治会で共有する場をつくる。簡易版などの分かりやすい冊子を作成する。
行政	① 市の取組みの PR の手法を見直す（具体的な目標値の明確化、テレビや SNS、インフルエンサーを利用した PR など）。 ② わかりやすいスローガンを掲げ、広報戦略と合わせて効果的な政策を推進

	する（「現役と社会人の町」など斬新なキャッチコピーにする）。 ③ 若い世代は SNS での情報発信や学校を通しての案内、高齢者は自治会、小地域ネットワーク、老人会や介護保険サービス事業所を通しての案内、市や社会福祉協議会の HP はすぐに目的の情報に到達できるような工夫、障害を持つ人には動画、音声で伝える、外国人向けにはフリガナの表記や簡単な英語の表記をするなど、世代や属性ごとに受け取りやすい方法で情報提供する。 ④ 地域のボランティアの募集や子どもと高齢者が交流するイベントなど、市の公式 LINE など様々な媒体で情報発信を行う。 ⑤ 学校で、政策を知れるような取組みを行う。 ⑥ 今回の会議のように、東大阪市のことについて住民が話し合う場を継続的に設ける（場所の提供や条例の制定など）。 ⑦ 今回の会議で出た提案について、参加者が継続して関心を寄せられるように、ホームページなどに進捗状況を掲載する。
その他	① 実際に事業に関わっている人や力のある企業が発信を強化する。 ② 市内の企業が、東大阪市の取り組みについて社員に周知する。

上記以外の主な意見

- 様々な主体が一体となって地域課題を解決し、よりよいまちをつくっていく

<私たち住民>
- 市でお金を生み出せるような取り組みを提案し、東大阪の課題解決を進める。

<行政>
- 誰もが働きやすい仕組みを整えて財源を確保し、市の課題解決に投資できるようにする。

- LGBTQ の人たちの地域での安全な居場所をつくる

<私たち住民>
- 自分で講演活動を行う
- LGBTQ のコミュニティなどに行き、意見交換を行うなど理解を深める

<地域>
- 地域のイベントに出展する
- 商店街ぐるみで勉強してステッカーを貼ってもらう

<行政>
- 公共の場の提供

<その他の主体>
- 企業は LGBTQ 当事者を積極的に雇用する

- 生活困難者への対策

<私たち住民>
- 地域の交流へ誘導したり、さまざまな困りごとの相談相手となる。

<行政>
- 生活困難者の現状を把握し、寄り添いながら自立支援など一人ひとりに合った支援を行う。

４．【付録】委員アンケート結果（抜粋）

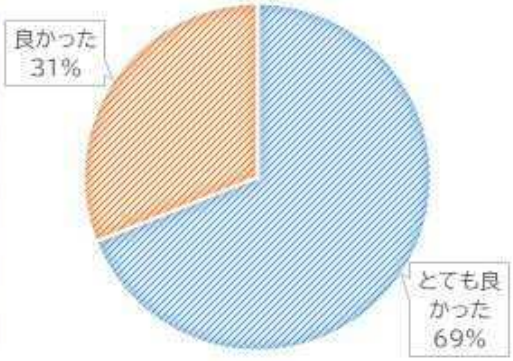
ひがしおおさか
地方創生
ラウンドテーブル

第1回(R6.10.27実施) アンケート結果

出席43名　アンケート回答29件

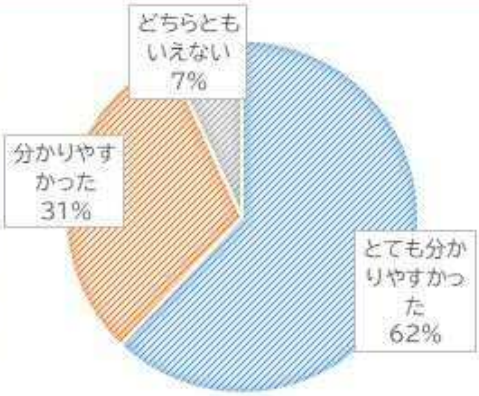
1.会議に参加してみていかがでしたか。

とても良かった	20	69%
良かった	9	31%
どちらともいえない	0	0%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	29	100%



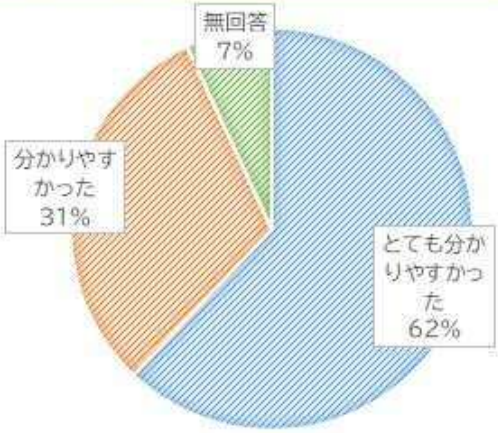
2.自分ごと化会議についての説明は、分かりやすかったですか。

とても分かりやすかった	18	62%
分かりやすかった	9	31%
どちらともいえない	2	7%
分かりにくかった	0	0%
とても分かりにくかった	0	0%
無回答	0	0%
合計	29	100%



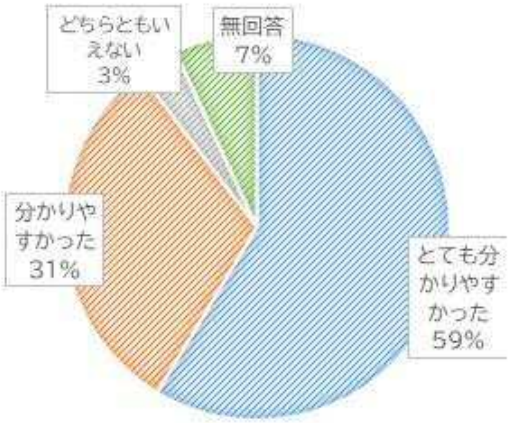
3.担当課からの説明は、分かりやすかったですか。

とても分かりやすかった	18	62%
分かりやすかった	9	31%
どちらともいえない	0	0%
分かりにくかった	0	0%
とても分かりにくかった	0	0%
無回答	2	7%
合計	29	100%



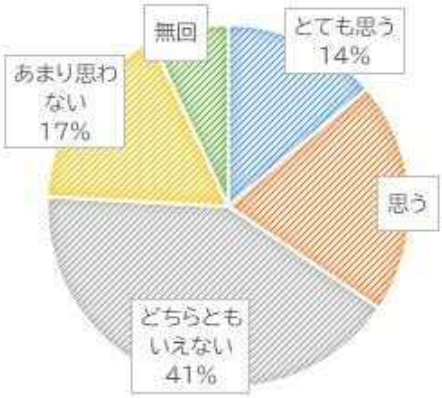
4.コーディネーターの進行やまとめ方は、わかりやすかったですか。

とても分かりやすかった	17	59%
分かりやすかった	9	31%
どちらともいえない	1	3%
分かりにくかった	0	0%
とても分かりにくかった	0	0%
無回答	2	7%
合計	29	100%



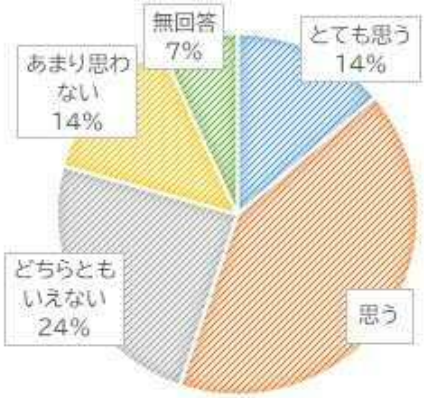
5.東大阪市は子どもが住みやすい、子育てしやすいまちだと思いますか？

とても思う	4	14%
思う	6	21%
どちらともいえない	12	41%
あまり思わない	5	17%
まったく思わない	0	0%
無回答	2	7%
合計	29	100%



6.東大阪市は高齢者が活躍を実感できるまちだと思いますか？

とても思う	4	14%
思う	12	41%
どちらともいえない	7	24%
あまり思わない	4	14%
まったく思わない	0	0%
無回答	2	7%
合計	29	100%



7.今回テーマに掲げた、子どもファースト実現と高齢者のウェルビーイング向上の両立をめざしたまちづくりを推進するために、あなたが必要だと思う取り組みがありましたら、ご記入ください。

- 子どもに必要なものを子ども目線で考えるべきだなと思いました
- 子どもと高齢者が自由に交流できる機会と場所を提供する取り組み。
- お互いのことをもっと認知し、各々がいま何ができるか？を考えることができるようになれる取り組みが必要だと思いました。いろんな人がいて、今自分の街や暮らしが成り立っているということが住んでいる人全員で認知できればいいなと思いました。
- 一見では分からない孤独、疎外感をどのようにケアしていくか?
- 今のところは、解らないが何か見付けたいと思っています。
- 高齢者の昼間の居場所と、子どもの放課後の居場所が共存しているといいのでは。
- 市民一人ひとりが受け身ではなく、主体的に自身のウェルビーイングと心地の良い街を作ることを考えて行動できるような継続的なシステムやラウンドテーブルなどのイベント。

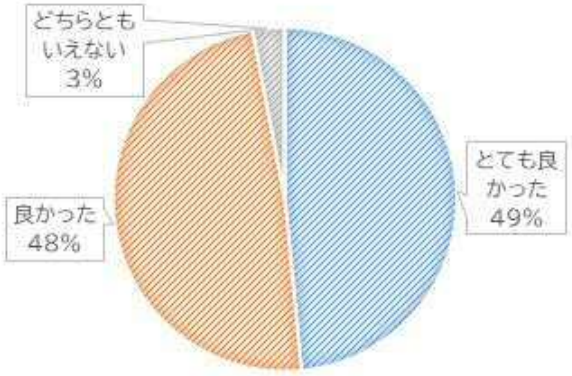
ひがしおおさか
地方創生
ラウンドテーブル

第2回(R6.11.17実施) アンケート結果

出席40名　アンケート回答33件

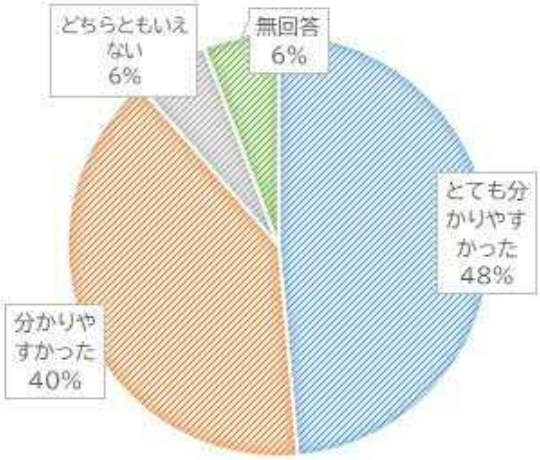
1.会議に参加してみていかがでしたか。

感想	件数	割合
とても良かった	16	48%
良かった	16	48%
どちらともいえない	1	3%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	33	100%



2.コーディネーターの進行やまとめ方は、わかりやすかったですか。

感想	件数	割合
とても分かりやすかった	17	49%
分かりやすかった	14	40%
どちらともいえない	2	6%
分かりにくかった	0	0%
とても分かりにくかった	0	0%
無回答	2	6%
合計	35	100%



3.次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたらご記入ください。

- 内容の濃いお話ができ、次回の課題も明確になって良かったです
- 勉強出来るスペースが少ないという考えは、案外誰もが考えていることなんだと知ることが出来ました。
- 東大阪市にどのような問題があるのか、考えるよい機会になった。
- 漠然とした目標より、明確に○年までにする！というものを１つでも決定できたら良いなと思いました。（小さい目標でもいいので）いろんな立場や年齢の人がいるのでみんなの総意は難しいですが、これに参加した１つの結果が最後には出せれば。

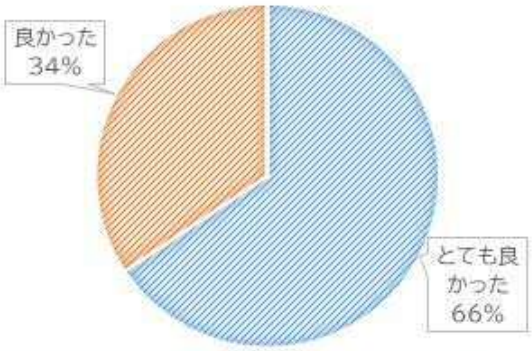
ひがしおおさか
地方創生
ラウンドテーブル

第3回(R6.12.22実施) アンケート結果

出席39名　アンケート回答32件

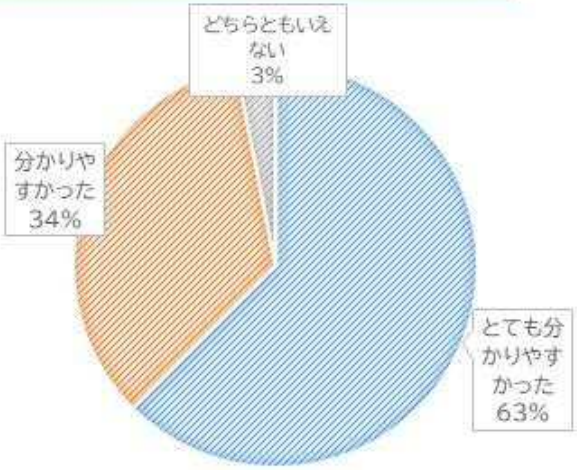
1.会議に参加してみていかがでしたか。

感想	件数	割合
とても良かった	21	66%
良かった	11	34%
どちらともいえない	0	0%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	32	100%



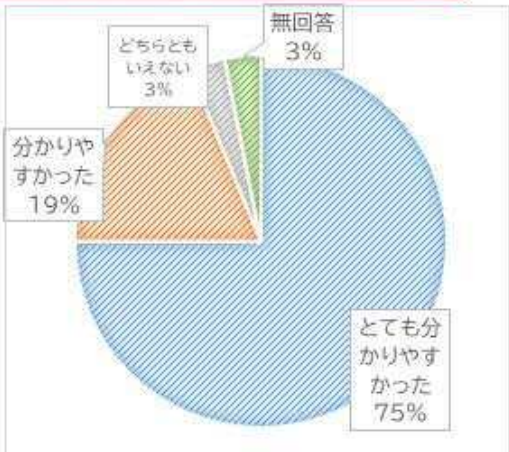
2.コーディネーターの進行やまとめ方は、わかりやすかったですか。

感想	件数	割合
とても分かりやすかった	20	63%
分かりやすかった	11	34%
どちらともいえない	1	3%
分かりにくかった	0	0%
とても分かりにくかった	0	0%
無回答	0	0%
合計	32	100%



3.ナビゲーターの話は、分かりやすかったですか。ナビゲーターの話を聞いて、新たな発見や気づきがありましたら、ご記入ください。

感想	件数	割合
とても分かりやすかった	24	75%
分かりやすかった	6	19%
どちらともいえない	1	3%
分かりにくかった	0	0%
とても分かりにくかった	0	0%
無回答	1	3%
合計	32	100%



4.次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたらご記入ください。

- 方向性を絞って欲しいのと、今後、何がどう言うふうに実現されていくのか、後追いできるようまとめてほしい。
- 若者が高齢者へ一方的に関わるのではなく、お互いが歩み寄っていくことが子どもにも高齢者にも良いということがわかりました。考えの転換で、高齢者施設でも大きく異なるという事に気付きました。
- これまでと違った視点のお話を聞く事ができ、有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- 最終的にどのようにまとめて意見書の提出するのか、提出後はどうやって実現していくようになるのか最後まで見守りたいと思います。
- この会、ラウンドテーブルに参加できてよかったと思います。

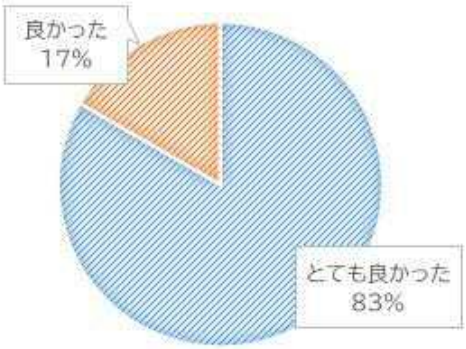
ひがしおおさか
地方創生
ラウンドテーブル

第4回(R7.1.19実施) アンケート結果

出席40名　アンケート回答18件

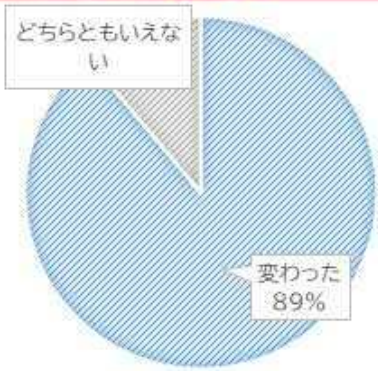
1.会議に参加してみていかがでしたか。

感想	件数	割合
とても良かった	15	83%
良かった	3	17%
どちらともいえない	0	0%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	18	100%



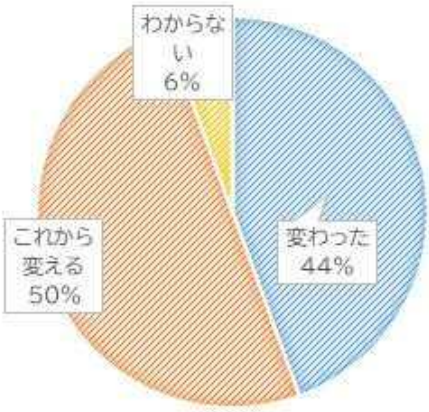
2.会議に参加したことで、意識に変化はありましたか。

感想	件数	割合
変わった	16	89%
変わっていない	0	0%
どちらともいえない	2	11%
無回答	0	0%
合計	18	100%



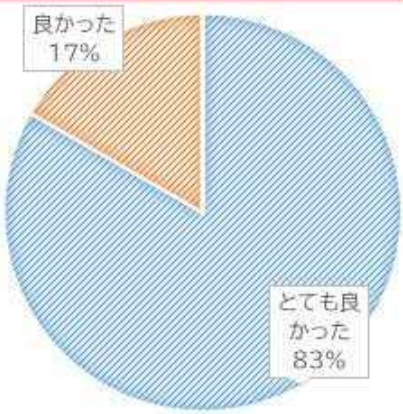
3.会議に参加したことで、行動に変化はありましたか。

感想	件数	割合
変わった	8	44%
これから変える	9	50%
変わっていない	0	0%
わからない	1	6%
無回答	0	0%
合計	18	100%



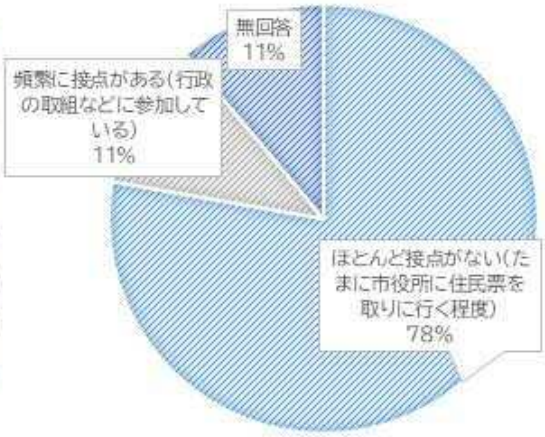
4.今回のテーマ「子どもファースト実現と高齢者のウェルビーイング（生きがいや幸福感）向上の両立をめざしたまちづくり」は住民が考える内容として、どう思われますか。

感想	件数	割合
とても良かった	15	83%
良かった	3	17%
どちらともいえない	0	0%
良くなかった	0	0%
まったく良くなかった	0	0%
合計	18	100%



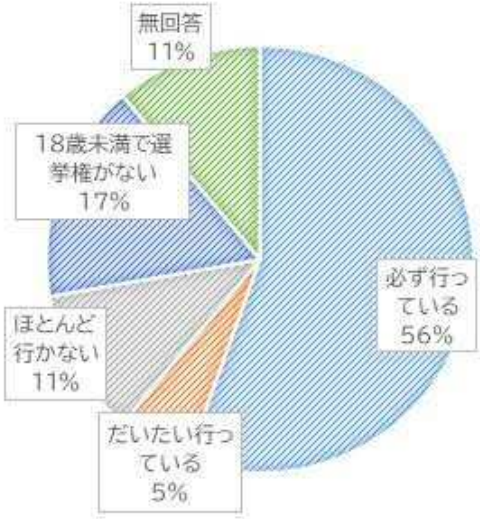
5.これまで行政とどの程度の接点がありましたか。

感想	件数	割合
ほとんど接点がない（たまに市役所に住民票を取りに行く程度）	14	78%
年に数回は接点がある（市の職員とある程度話をする）	0	0%
頻繁に接点がある（行政の取組などに参加している）	2	11%
その他	0	0%
無回答	2	11%
合計	18	100%



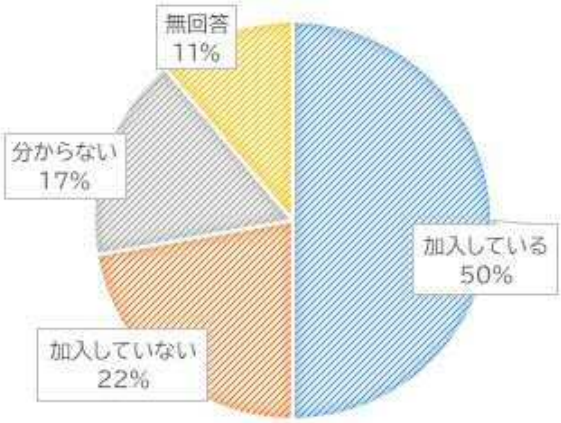
6.選挙の投票にはどの程度行っていますか。

感想	件数	割合
必ず行っている	10	56%
だいたい行っている	1	6%
ほとんど行かない	2	11%
行ったことがない	0	0%
18歳未満で選挙権がない	3	17%
無回答	2	11%
合計	18	100%



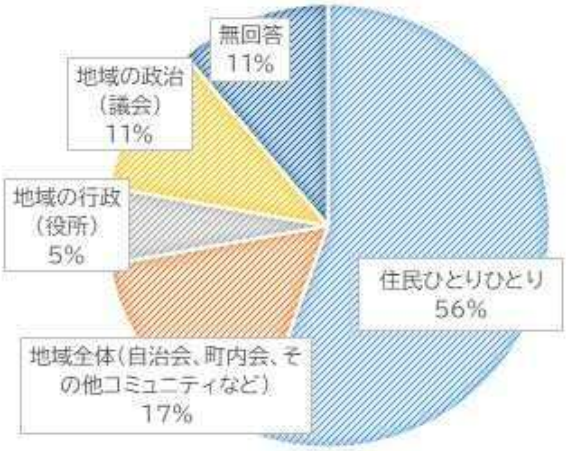
7.地域の自治会には加入していますか。

感想	件数	割合
加入している	9	50%
加入していない	4	22%
分からない	3	17%
無回答	2	11%
合計	18	100%



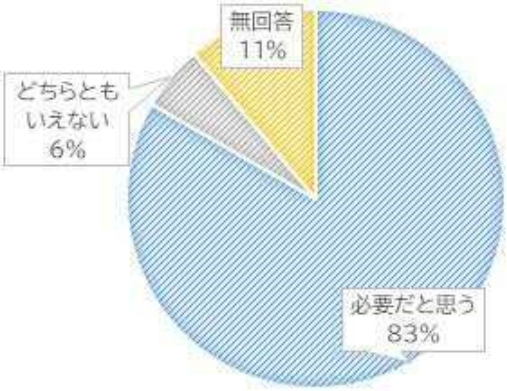
8.まちを住みやすくするために最も主体的に行動すべきだと思うものは次のうちどれですか。

感想	件数	割合
住民ひとりひとり	10	56%
地域全体(自治会、町内会、その他コミュニティなど)	3	17%
地域の行政(役所)	1	6%
地域の政治(議会)	2	11%
地域の民間企業、NPO等の団体	0	0%
その他	0	0%
無回答	2	11%
合計	18	100%



9.今回のように、無作為抽出の手法を使って議論するやり方についてどう思いますか。

感想	件数	割合
必要だと思う	15	83%
必要だと思わない	0	0%
どちらともいえない	1	6%
無回答	2	11%
合計	18	100%



10.今後、住民同士でまちの課題について議論・意見交換ができる場があれば参加したいと思いますか。

感想	件数	割合
思う	12	67%
思わない	0	0%
どちらともいえない	3	17%
無回答	3	17%
合計	18	100%

11.あなたにとって今回のテーマにおける「自分ごと化」はどのようなことでしょうか。

- やはり自分から動く。
- 積極的に市の取り組みに参加する。
- 他人事ではなく自分のこととして考えることができた。
- 自分たちの税金がどう使われているか、自分が直接関与してない時はどの方に役立っているか等を関心を持って情報を取りに行くこと。まずは情報が無いと意見も出てこないので、自分のことだと考えて情報取得していきたいです。
- 東大阪市民としての誇り。
- 普段関わる事のない世代に積極的に関わっていく事。
- あるテーマがあるとしてその問題を俺には関係ないではなく自分で出来る事、地域が、行政が…と考える機会になる
- 自分の住んでいる地域は自分の家がある場所です。自分とは関係ない場所ではなく、積極的に考える事によって、より現実に即した提案が可能となるのではと思われます。
- 現役世代として、出来る事を考えて行動する事だと思います。
- 他人事と思わずに自分ごとと考えること、思うこと。
- 勉強になった。
- いろいろな人の意見を聞いて今後の自分の行動。
- 私自身が前期高齢者となり、今後の人生を豊かにするすべを知れた。